

ちゅうだまち
⑥ 仲田町団地 〈千代田町〉

人口 201 人、世帯数 78 世帯

当団地は、昭和 47 年に旧千代田町西部に誕生しました。春になると、公民館広場には満開の桜が咲きそろい、隠れた名所になります。

住民の高齢化により、余暇への関心も高く、お互いの交流を深めるための木曜座談会やランドゴルフ、気功、しめ縄焼き等の行事に人気があります。とりわけ、環境美化には関心が高く、クリーン清掃には住民総出で取り組みます。

団地公園の石碑に、「永遠の睦みを礎に」の文字が刻まれています。私たちが守り続けたい言葉です。



▲毎年行われるしめ縄焼き

あねがわしもぶん
⑤ 姉川下分 〈神埼町〉

人口 148 人、世帯数 46 世帯

姉川下分地区の天満宮では、毎年 7 月、大人と子どもが円をつくって座り、大数珠を回しながら南無阿彌陀仏を唱え、無病息災を祈る伝統行事「百万遍」が行われています。

この地区の百万遍がいつ始まったのかはわかりませんが、寺がなくなり、天満宮で行事を受け継いできたものと考えられています。現在、地区の安全と幸福を願い、姉川上分との合同で行っています。

また、5 月の「姉下フェスタ」では、「ひゃあらんさん祭り」「ランドゴルフ大会」を行うなど、住民同士の交流を深める活動や安全安心な地域づくりに積極的に取り組んでいます。



▲無病息災を願う「百万遍」

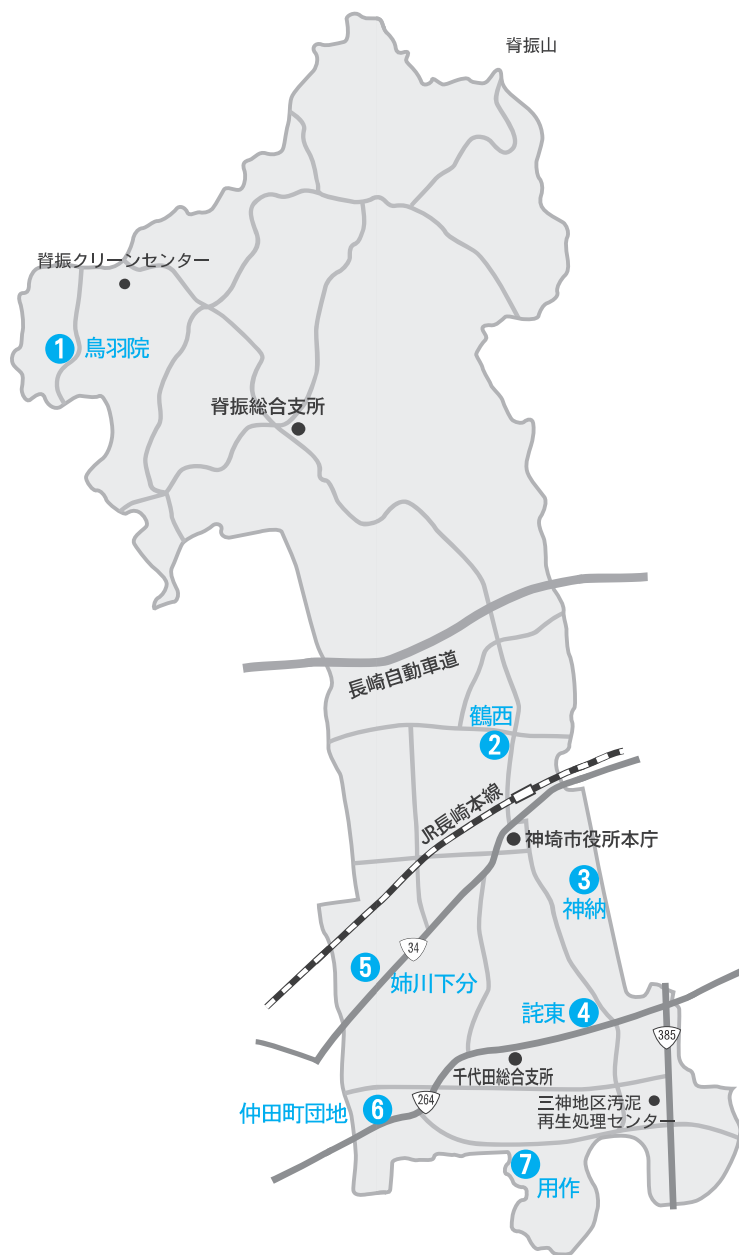
地区紹介 最終回



市民相互の理解と融和を図るため、市内 121 地区（神埼：63 地区、千代田：49 地区、脊振：9 地区）を紹介しています。

今回は、7 地区を紹介します。

※人口、世帯数は、平成 21 年 5 月末日の住民基本台帳のデータです。（施設などを含まず。）



つるにし
② 鶴西 〈神埼町〉

人口 418 人、世帯数 173 世帯

鶴西地区は、東は馬場川、西は城原川にはさまれ、北は川寄橋から、南は中央公民館までの南北に細長い地形です。

地区には、城原川流域の中でもめずらしく、家屋のすぐ横に野越しといわれる越流堤があり、その野越しから溢れる水を減衰させるための水害防備林により、水害から家屋を守るように作られています。この野越しの横には、龍宮の祠が祀られており、享保 14 年（1729 年）と記されています。

地区では、10 月に安全と豊作を願って龍宮祭を行い、また、春祭り・お観音さん祭り・お地藏さん祭りなどの古き伝統のほか、河川敷でのレクリエーション大会など新しいものを取り入れながら交流を行っています。



▲河川敷でのレクリエーション大会

とばいん
① 鳥羽院 〈脊振町〉

人口 154 人、世帯数 46 世帯

鳥羽院地区は、「神埼市」誕生と同時に鳥羽院上・鳥羽院下の 2 集落が「鳥羽院」となりました。鳥羽院は、脊振町の最も西にあり、佐賀市大和町・三瀬村と接しています。

この地区には「絹巻観音」の伝説があり、昔は「絹巻の里」と呼ばれていました。この地に伝わる伝承では、永久の乱により隠岐島に流された後鳥羽上皇を神として祀ったとされる後鳥羽神社があり、例年春秋の祭礼が地区をあげて行われています。

また、明治 8 年に開校し、多くの児童を育んだ鳥羽院分校は、平成 15 年に閉校しましたが、現在、社会教育施設「鳥羽院山荘」として生まれ変わり、年間を通して児童、生徒などの研修や交流の場として幅広く利用されています。



▲後鳥羽神社

ながさきがいどう
長崎街道

神埼宿は江戸時代、本陣や脇本陣が揃った格式ある本宿だった所です。

街道の道筋は往時のままで、櫛田宮を中心とした、町並みの広がりがあります。

一里塚は、当時 1 里（4km）毎に設置され、旅人に距離を知らしめ、休憩の木陰を提供したのですが、長崎から小倉までの 228km の道程の中で、唯一、神埼に一里塚が残っています。

新宿から姉本村にかけても部分的に街道が残り、境原宿も県道で切られてはいますが、たどることの出来る貴重な道筋です。境原という地名も佐賀との境から付いたもので、まさにそのまま現在も佐賀市との境界に、郡境石が残っています。



▲長崎街道で唯一残る「ひの柱一里塚」

ようさく
⑦ 用作 〈千代田町〉

人口 165 人、世帯数 45 世帯

用作は、神埼市の南端に位置し、地区の西側を城原川が流れ、南は佐賀市蓮池町と接する集落です。以前は大半が農家でしたが、若者の農業離れなどで現在の農家は戸数の約 3 分の 1 です。藩政時代には、用作は「ゆうじゃく」と呼ばれていました。近隣の集落とは違い、佐賀鍋島本藩の直轄地であり、本藩よりお目付役人が派遣されて統治されていたようで、言葉も「ゆうじゃく言葉」というものがあり、近隣地区とは少し違っていました。

当時の統治者の人材育成という思いからか、地区には氏神様として、菅原道真公（天満宮）と鎮西八郎為朝の文・武の二神体が併祀されています。また、神社では、春には桜の花見、秋には村祭りが行われ、住民の融和を図っています。



▲鎮西八郎為朝(左)と菅原道真(右)のご神体

たくひがし
④ 詫東 〈神埼町〉

人口 195 人、世帯数 63 世帯

詫東地区は、田手川右岸側で城東橋の南東部に位置しています。

伝統行事は、春は、お釈迦様のご誕生を祝うおこもり、夏には、祇園祭、秋には、メ縄張り、秋祭り、天満宮で地区全員の安全祈願祭を行い、同時に子どもたちの焼肉会も行っています。

12 月初めには堀干を行い、12 月 15 日を中心にこぐり仕食会が行われています。

また、子どもたちと老人クラブとの親睦を深めるため、年末には餅つき、ランドゴルフ大会を行っています。

今後とも、地域ぐるみで環境づくりに努めたいと思っています。



▲祇園祭での住民交流

かんのう
③ 神納 〈神埼町〉

人口 151 人、世帯数 36 世帯

神納地区は、神埼町の東部に位置しています。北側には県道市武神埼線があり、小学校・スーパー・医院なども近く、生活には便利なおこもりです。

旧三本松川跡には、農村公園もあり、静かな田園地帯の風景が広がっています。

地区では、5 月に御誕生日、8 月に綾部さん参り、9 月におこもり、12 月には収穫祈願と親睦を兼ねた村祭りなど、皆が参加する行事を活発に行っています。また、櫛田神社のみゆき大祭の折には拝殿で神事を手伝っています。

神埼町の体育祭には、いつも全員参加で、ミニ部落で優勝するなど、大変まとまった地区です。



▲12 月に村祭りが行われる海童神社